

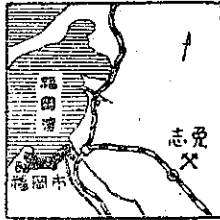
## 参 考 資 料

### 志 免 炭 鑛 の 現 況

正員 上原要三郎\*

志免炭鑛は福岡縣糟屋炭田の中樞をなすもので(附圖参照)明治23年海軍の創業にかかり、昭和20年運輸省に移管され、鑛區面積は260萬坪、殘存豫採炭量2,000萬ton、5,000餘の人員と龐大な設備を擁して7,000Cの上質炭を出して居る。曾ては年間出炭63萬tonに達し、戦争末期に於ても40萬tonを出して居たが、現在の出炭量(昭21)は20萬tonに達しない低能率を誇つて居る。これは勞務(官廳給與の弊、未熟練者及坑内外人員の比率等)資材及運営等の前に於ても種々改革を要する點も多いが、隊行炭層の自然条件の低下こそ最大の原因であらう。當鑛の炭層

志免炭鑛の位置



は上層、下層及最下層の三群層より成り、上層群は戦時中荒廢をも省ない濫掘に依つて既に大半を掘盡して現在下層群隊行へ移行す可き最も困難な時期に達着して居る。即ち現在上層群の掘り残した残柱及一重層

(厚さ僅かに30cm)より専ら採掘する第4~第7の各坑は此處兩三年中に廢棄の運命にあつて、唯第8坑(斜坑、深さ430m)に於ては上記婦女炭層の採掘を行つてゐるが、之とても未だ50萬tonの炭を出したに過ぎない。北九州切つての最良炭層である當鑛の下層群即ちザルボ、浦田中白及赤土の各層、豫採炭量も200萬ton、で開發する諸施設を急速に完成して、全面的に上層群より下層群へ作業を移す日が眞の志免の復興であり亦積極的増産の途でもあつて、志免金山

の希望と目標である。此の爲第8坑の整備と共に工事施行中の堅坑を完成して鑛區を東西に二分し、斜坑及堅坑の二つの坑より昭和25年以降年間最大70萬tonの下層炭を出す計畫であるが、坑口は近接し、坑外諸施設は集中能率的に共用されるよう設計されて居るから、之等完成の時には、坑内外の面目は一新されて現在の不成績も一氣に挽回が期待されて居る。又一面福利施設の面では基準炭鑛となり技術上でも研究炭鑛の面を持ち度いと云ふ抱負は國營志免の特色であらう。改良工事の概要は、堅坑では、本體(深430m、徑7m、巻厚50cm、槽高55m)は既に完成し、ケーベ-式1,000HP捲揚機、坑口及坑底の炭車操作設備、坑道の掘進並疊築等の工事があり、坑外では全山空氣動力化の爲めの4,000HP空氣壓縮機2臺、保安及補給用電力確保の爲めの3,500KW發電機2臺、選炭及貯炭設備等の擴張、之等に伴う給水設備及住宅700戸の建設等であつて、豫算は凡そ2億餘圓、23年度中には大半完成して以後は堅坑からも本格的に出炭を豫定して居る。24年以降は坑道の掘進を繼續する他、排氣堅坑の開發を始める豫定で目下地質調査を進めて居る。尚糟屋炭田下層の地質は甚だ悪く、堅坑壁面の土塵は掘發後次第に増大して遂には100~150t/m<sup>3</sup>にも達するものと推定され、セメント強度低下の折から坑底坑道附近の設計及施工は特に苦心を要するもので之については去る4月鐵道及炭鑛の其道の權威の參集を得て研究會を催し、種々検討の上、工事を進めて居るが、かかる研究會は炭鑛の間では眞に稀な事であつてそれ以上に成果も大きなものであつた。以上

\* 運輸省志免鑛業所